

蘭越町におけるスマート農業の取組 (後志農業改良普及センター)

背景

【蘭越町の概要】

○蘭越町は耕地面積が約4,000haで、そのうち水稲の作付が約1,700ha(令和3年)を占める水稲を基幹とした地域である

○水稲の省力栽培として、町の施設でロックウール苗(軽量)や高密度は種苗(育苗の小面積化)の育苗、供給が積極的に行われている



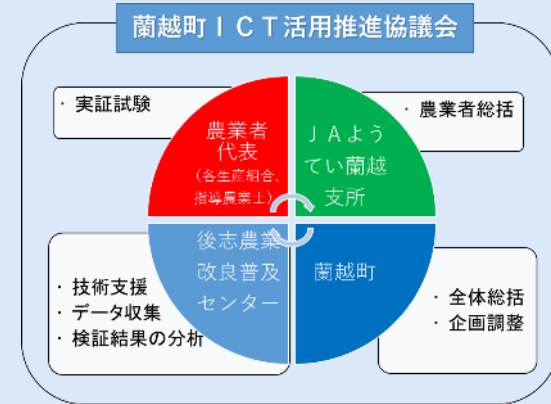
【地域の課題】

○令和3年の販売農家戸数は202戸で過去5年間で56戸減少し、高齢化と耕作面積の拡大により労働力不足が加速化している

○良食味米生産の継続には、労働力の軽減対策が必要である

普及活動内容

○令和元年「蘭越町ICT活用推進協議会」が設立



○これまで、省力化に向けてドローンによる共同防除を推進



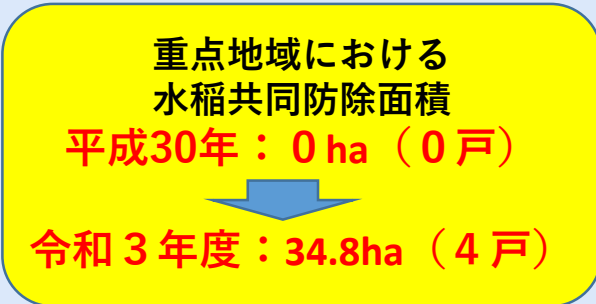
○ドローンによる少量拡散型除草剤の展示ほを設置(令和4年)



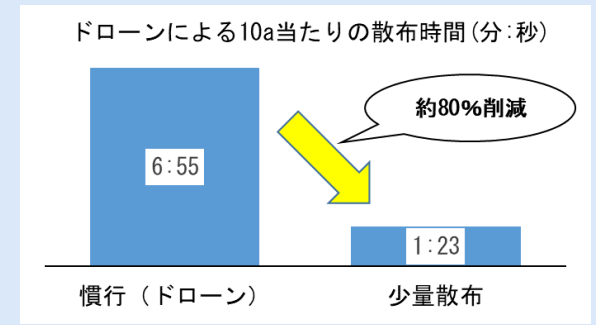
普及の成果

【具体的な成果】

○重点地域では、ドローンによる水稲防除体系が確立(4戸)



○ドローンによる少量拡散型除草剤の散布時間は慣行比80%削減



【成果のポイント】

○ドローンを利用した省力栽培技術により、農業者のICT技術に対する意識向上につながった